



# コミュバス 通信

発行日 平成 29 年 月 日  
 発行者 犬山市地域公共交通会議事務局  
 連絡先 犬山市民部地域安全課  
 Tel 0568-44-0347  
 Mail 010400@city.inuyama.lg.jp

犬山市では、既存の公共交通機関が存在しない地域の住民や自動車を運転できない高齢者等の移動手段を確保するため、犬山市コミュニティバスを運行し、年間約 85,000 人(平成 28 年度)にご利用いただいています。

一方で、道路が狭隘でバスが走行できない地域の存在、曜日限定の運行、路線の長大化による限られた運行本数等の課題が挙げられています。これら課題を解決し、みんなが利用しやすいコミュニティバスとなるよう、犬山市では、平成 30 年度のコミュニティバスの再編を目指し、検討を進めています。

この「コミュバス通信」は、平成 30 年度の再編に向けての経過を市民の皆様にお知らせするため、第 2 号として、創刊号に引き続き発行し、今後も随時発行していきます。

なお、再編に向けての、ご意見やご要望は、電話・Eメール・手紙等々、いつでも地域安全課にて受け付けています。

## 第 2 回犬山市地域公共交通会議を開催！

### ■ 平成 30 年度に向けた再編案を議論

平成 29 年 8 月 14 日に第 2 回目犬山市地域公共交通会議が開催されました。会議では、平成 30 年度のコミュニティバスの再編(案)について、各委員による協議を行いました。

コミュニティバスの再編案について、委員からは、「まちづくりとの連携」「運行経費の負担のあり方」「路線再編で重要視するもの」等の様々なご意見を頂きました。

今後も引き続き、各委員からのご意見等を参考に、具体的なルートやダイヤ等の検討を進めてまいります。

### ■ 会議での主な質問や意見及びその回答

- 路線の役割、まちづくりとのつながり、公共交通として将来的に何をを目指すのか整理すべきでは？  
⇒【事務局回答】時間は限られているので、まずは路線再編により、現在明らかになっている課題を解決したい
- 行政と利用者の両方の金銭的負担を増やしてでも利便性を向上させるべきではないか。
- 再編イメージの D 案がいいと思うが、どのくらいの経費がかかるか不安である。
- どのくらいの運行本数を考えているのか？  
⇒【事務局回答】現在の便数以上を確保したいと考えています。
- 何を重要視して路線再編を行うのか、どのくらいの資金投入を考えているのか整理すべきでは？  
⇒【事務局回答】方向性が決まったら具体的なルート、便数、運行時間等を検討し、運行経費を算出したい。
- 再編案の検討にあたってはどの案でどのくらいの経費が掛かるのか整理してほしい。
- 利用者がどのくらいの時間バスに乗っているか整理し、乗り継ぎの仕組みを導入すべきか検討してほしい。
- 路線再編を行った後にいつ公共交通の計画を策定するのか、将来的なスケジュールを示してほしい。

## “コミュニティバスの再編のターゲット”を整理

「犬山市が目指すまちづくり」「公共交通の現状」「市民ニーズの整理」を踏まえ、“コミュニティバス再編のターゲット”を設定しました。コミュニティバスの再編にあたっては、“コミュニティバス再編のターゲット”を実現する路線再編を検討します。

### 【 コミュニティバス再編のターゲット 】

- ① 都市形成軸の構築に資する路線の導入
- ② 交通空白地・交通不便地域の減少
- ③ 運行日数の増加
- ④ 効率的な運行による運行頻度の増加
- ⑤ 運行負担金を考慮したサービス提供

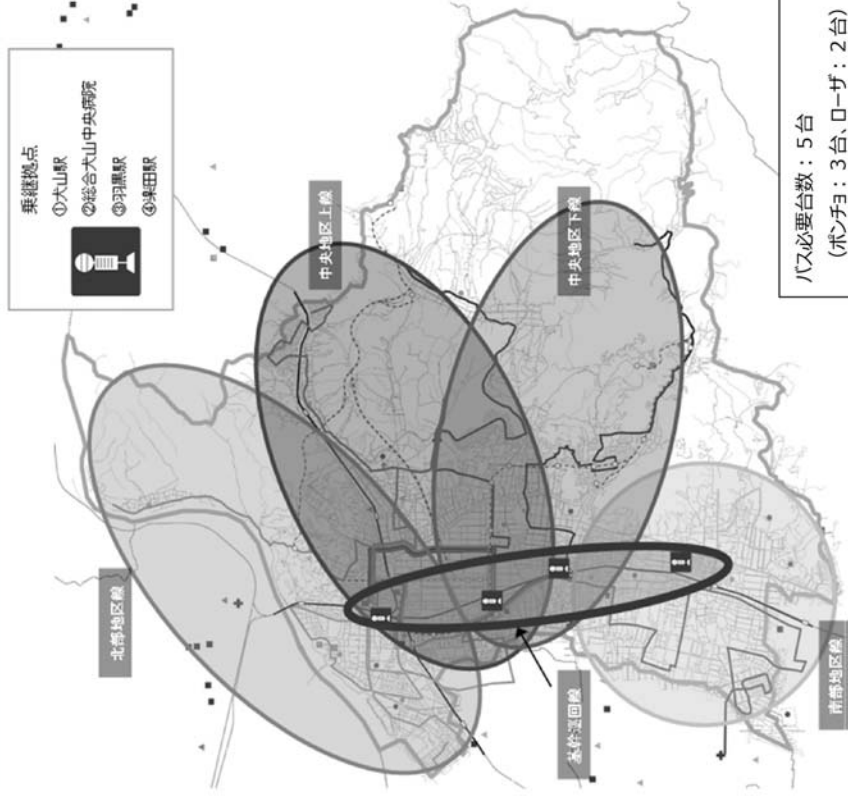
## 複数の再編イメージを多様な視点で比較

再編イメージの検討にあたっては、複数案を提示し、“コミュニティバス再編のターゲット”に対応した 7 つの視点で評価・検討を行いました。

評価の視点	現行路線	再編イメージ A	再編イメージ B	再編イメージ C	再編イメージ D
①都市形成軸の構築	—	△長大な基幹巡回線を導入	○基幹巡回線を導入	×複数路線が混在	×複数路線が混在
②交通空白地の減少	×交通空白地が存在	×交通空白地が存在	○交通空白地域の減少が可能	○交通空白地域の減少が可能	○交通空白地域の減少が可能
③運行日数の増加	×曜日限定の運行	○運行日数の増加が可能	○運行日数の増加が可能	○運行日数の増加が可能	○運行日数の増加が可能
利便性	—	×長大な路線	○路線延長の短縮	×一部長大な路線が残る	△一部路線の路線延長の短縮
		○乗り継ぎなし	×乗り継ぎが必要	○乗り継ぎなし	○乗り継ぎなし
⑥運行負担金への影響【車両数】	— 現状【5台】	○現状程度の運行負担金【5台】	×運行負担金が拡大【7～8台】	△バス車両の増車が必要【6台】	×運行負担金が拡大【7台】
⑦その他の特徴	—	①乗り継ぎ方式を採用。現行の車両数で毎日運行を実現 ②名鉄小牧線との競合回避が必要となる	①乗り継ぎ方式を採用。Aと比較し、交通空白地の解消と運行頻度の増加が期待できる	①犬山駅及び総合犬山中央病院までのアクセスを重視 ②現行路線を基本とするため、路線再編による利用者への影響は少ない	①犬山駅及び総合犬山中央病院までのアクセスを重視 ②Cと比較し、一部の路線で運行頻度の増加が期待できる

※各地域から犬山駅及び総合犬山中央病院までの乗り継ぎの有無

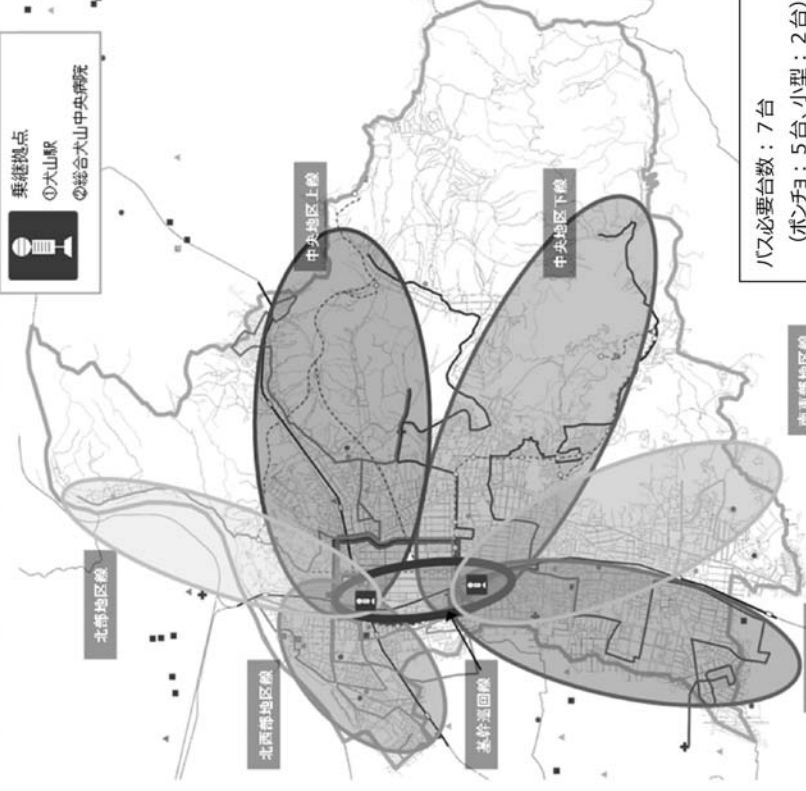
### 再編イメージ A 生活圏を重視とした再編イメージ



バス必要台数：5台  
(ポンチヨ：3台、ローザ：2台)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の運行負担金で毎日運行を実現させるために考案</li> <li>・ 犬山駅、総合犬山中央病院へ行くために乗り継ぎが必要な路線がある</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の運行負担金程度で運行可能</li> <li>・ 毎日運行が実現できる</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 犬山駅及び総合犬山中央病院へ行くために乗り継ぎが必要となる</li> <li>・ 増便効果は低い</li> <li>・ 交通空白地が残る</li> </ul>

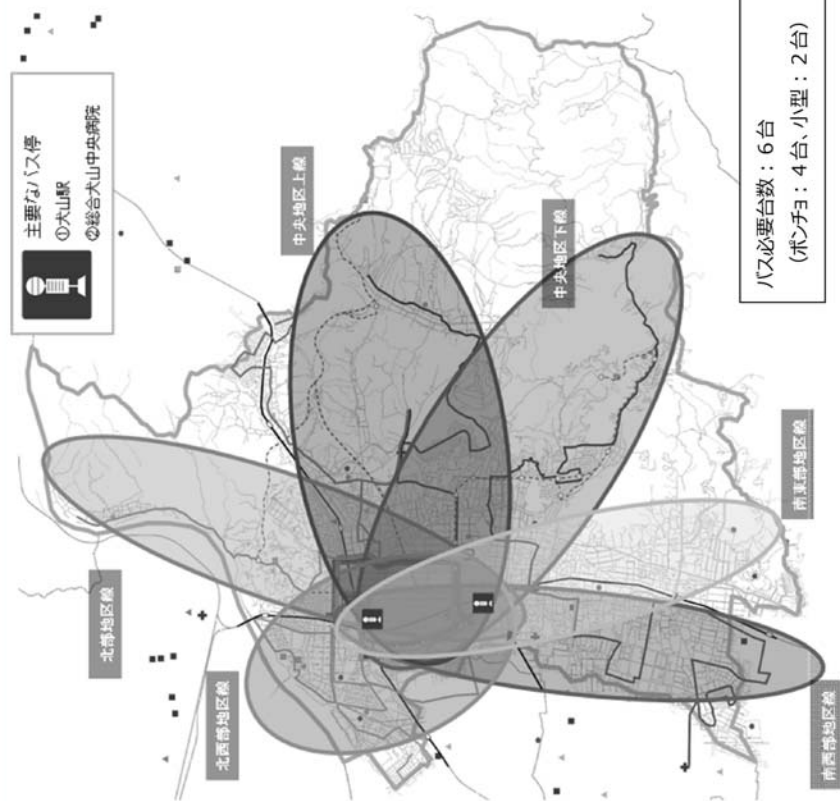
### 再編イメージ B 犬山駅と総合犬山中央病院を中心とした再編イメージ



バス必要台数：7台  
(ポンチヨ：5台、小型：2台)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティバスに対する一番のニーズである毎日運行を実現させるために考案</li> <li>・ 現行と比べ増便も可能</li> <li>・ 犬山駅、総合犬山中央病院へは乗り継ぎが必要となるが、現行と比較しても乗車時間の影響は少ない</li> <li>・ 毎日運行が実現できる</li> <li>・ 交通空白地の減少 (北部地区線及び南部地区線において、小型車両を導入した場合)</li> <li>・ 増便効果が高い</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運行負担金が増える</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 犬山駅及び総合犬山中央病院へ行くために乗り継ぎが必要となる</li> </ul>

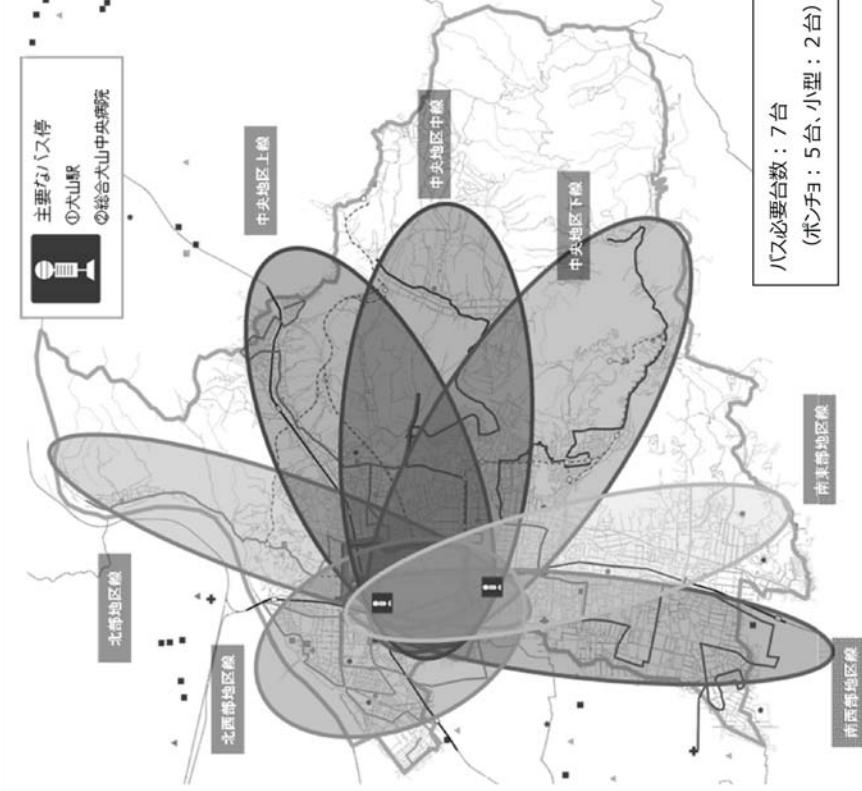
### 再編イメージ C 犬山駅と総合犬山中央病院へのアクセスと生活圏を重視した再編イメージ



バス必要台数：6台  
(ポンチヨ：4台、小型：2台)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティバスに対する一番のニーズである毎日運行を実現させるために考案</li> <li>・ 現行の運行負担金への影響を少なくする</li> <li>・ 犬山駅、総合犬山中央病院へは全路線において直接行くことができる</li> <li>・ 現行路線を基本とするため、路線再編による利用者への影響が少ない</li> <li>・ 毎日運行が実現できる</li> <li>・ 交通空白地の減少 (北部地区線及び南部地区線において、小型車両を導入した場合)</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運行負担金が増える</li> <li>・ 増便効果は低い</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中央地区上線においては長大な路線となる（現行の便数より減少する可能性有）</li> </ul>

### 再編イメージ D 犬山駅と総合犬山中央病院へのアクセスを重視した再編イメージ



バス必要台数：7台  
(ポンチヨ：5台、小型：2台)

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティバスに対する一番のニーズである毎日運行を実現させるために考案</li> <li>・ 犬山駅、総合犬山中央病院へは全路線において直接行くことができる</li> <li>・ 現行路線を基本とするため、路線再編による利用者への影響が少ない</li> <li>・ 毎日運行が実現できる</li> <li>・ 交通空白地の減少 (北部地区線及び南部地区線において、小型車両を導入した場合)</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運行負担金が増える</li> <li>・ 増便効果は低い</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運行負担金が増える</li> <li>・ 増便効果は低い</li> </ul>